

2024 年 新年の挨拶

JABM 会長
東英工業(株) 取締役
有泉 豊徳



2024 年 が 明 け ま し た が、 本 年 は 1/16:10 最大震度 7(マグニチュード 7.6) の激震に見舞われた石川県能登地方にて被災された企業及び従業員の方々に謹んでお見舞い申し上げます。

被災された企業の**村田製作所** 村田恒夫会長は京都の経済団体 1/5 日会合で「七尾市と穴水町の 2 工場は操業再開に時間が掛かりそうだ、ジャイロセンサー・超音波センサ・ショックセンサ・フィルタ・コンデンサ・インダクタ・自動車関連アプリなど生産。他の 11 工場は工業用水の停止や設備の微調整でフル稼働までには時間が掛かるが、製品の供給は在庫などでしのげる。積層セラミックコンデンサの工場稼働率に大きな影響は無いとの談話。(ムラタセイサク君自転車・1 輪車ムラタセイコちゃん有名)

東芝デバイス&ストレージは石川県能美市にあるパワー半導体工場の操業を停止中。余震が継続している為、生産ラインを動かせない。クリーンルームの排気配管が広範囲に渡り破損。製造装置の石英などの破損により手配・修理・交換を進めているが、必要数の確保に時間が掛かる。被害少ない一部生産工程は 1/9 日に操業再開した。

サンケン電気 パワー半導体製造の堀松工場・滋賀工場・能登工場は工場用水の確保を自治体と交渉。

富士電機パワーセミコンダクタ 富山県滑川市 北陸工場は、パワーモジュール車載ブレーキ・ステアリング制御 IGBT・電源制御用 IC を製造、1/9 日操業開始。

JDI ジャパンディスプレイ モバイル用でディスプレイ製造石川県川北町 1/8 日クリーンルーム内配管・ダクト修理完了 1/9 日生産装置立ち上げ完了。クリーンルームの温湿度調整用重油・LPG の安定確保が残課題。

パナソニックホールディングスは石川県内にグループのモータ工場はあるが被害なし。

KOKUSAI ELECTRIC 半導体製造装置・成膜プロセスソリューションを製造_富山事業所は天井材・壁材・空調配管などに被害あり。1/9 日から事業活動開始。十分な在庫量も確保されている。

1/1 日 (月)16:06 震度 5 強 (M5.7)・**16:10 震度 7(M7.6)**・**16:18 震度 5 強 (M6.1)**・**16:56 震度 5 強 (M5.7)**・**20:35 震度 5 弱 (M4.6)**

以下、1 日間の最高震度を記述。

1/2 日 (火)10:17 震度 5 弱 (M5.6)
1/3 日 (水)10:54 震度 5 強 (M5.5)
1/4 日 (木)15:46 震度 4(M4.4)
1/5 日 (金)22:09 震度 4(M4.4)
1/6 日 (土) 5:26 震度 5 強 (M5.3)
1/7 日 (日) 21:38 震度 4(M4.7)
1/8 日 (月)2:59 震度 3.7(M2)
1/9 日 (火)7:09 震度 3(M2.8)
1/10 日 (水) 20:00 震度 3(M4.1)
1/11 日 (木) 0:42 震度 2(M3.3)

1/9 日 (火) 以降は震度 3 以下に収まりましたので操業を開始した企業も多くなりました。

3 年前から活発な群発地震が続いていた能登半島北東部での**震度 7(M7.6)**は石川県で起こった地震としては歴史上最大の規模です。震源地は能登半島の北岸に沿って北東から南西に 150km に及び南東に傾斜した複数の断層が運動しているとみられ、震源域は珠洲沖・和島沖・猿山沖など海底の活断層に対応しています。今回の地震以前から、北陸電力志賀原発は運転停止中ですが、今回の地震で新たに安全上の重大な問題点が二つ浮き彫りになっています。

一つは活断層を過小評価していた事で政府の地震評価委員会は今回の地震で動いた断層の長さは能登半島に沿う 150km と推定していますが、北陸電力が想定していたのは 96km で 3 分の 2 に過小評価していた事になります。この判断の根拠は海底の音波探査の結果でした。今回の様に、この調査方法では将来起きる地震の規模を評価する事が難しいとなれば他の原発審査にも影響を与えることになります。北陸電力による地震想定失敗は、2007 年の能登半島地震に続いて 2 回連続です。前回も海底活断層の長さを過小評価して、想定より大きな揺れに襲われました。

二つ目は、志賀原発の位置です。今回の地震震源地地図をご覧になった方は、多数おられると存じますが、TV News の能登半島地図には何故か、能登半島の細い付け根にある北陸電力志賀原発の位置が記載されていません。地形から見て放射能漏れが発生した場合、激震地の輪嶋市・穴水町・七尾市は原発から 30km の圏内です。被災住人は全壊した住宅で屋内退避は出来ません。避難しようにも道路は寸断されています。避難のタイミングや方向を決めようにも平時に放射線量を調べているモニタリングポストが電源喪失などにより機能を失い、輪嶋市と穴水町に設置された 14 か所で計測不能になりました。

被災住民は情報を得ようにも、携帯電話も繋がらず、これでは逃げようがありません。

今回地震のわずか 1 か月前、経団連の十倉雅和会長が、志賀原発を視察して「一刻も早く再稼働できるよう心から願っている」と述べました。しかし北陸電力が活断層の評価を何度も間違えその原因も究明されていないのであれば、事故発生時の被災住民の避難が困難な志賀原発を安易に再稼働させるのは、あまりにも危険です。何故この場所に志賀原発があるのか、

再度我々国民は再検討すべきであり、志賀原発を廃炉にすべき討論も国会で行うべきだと考えますが、JABM 会員の皆様はどうお考えでしょうか？

今回の能登半島地震では、前述の多数の企業が被災いたしました。

自動車関連のパワー半導体・機能部品製造量が地震の影響を受け落ち込まないことを祈ります。

自動車業界を中心とした半導体チップの供給不足が続いた為、サプライチェーン全体で過剰在庫を持つ企業が多く発生した。

2023 年前半では在庫調整を行う企業が増加して、ボンド磁性材の購入が減少した。

今回の地震による電子部品不足の警戒感から 2021 年・2022 年・2023 年に連鎖した実需でないところの在庫積み増しの発生からの在庫調整を行う結果にならぬ様に致しましょう。

ボンド磁石の市場動向としては例年同様に企画委員会が 2023 年の生産推計を行っております。新年のご挨拶の 1 月は全集計が揃わないため、下記の概況報告となります。

2023 年度 (1 ~ 9 月) 期間の平均値と、2022 年度 (1 ~ 9 月) 期間の平均値を比較すると、フェライト磁粉国内出荷量は 78% に留まり、海外出荷量は 70% でした。MQ 粉の世界出荷量は 94% に留まりマグネクエンチ・セグメントの販売量は減少しました。

Neo Performance materials reports は需要の見通しに変化し、サプライチェーン全体で過剰在庫が発生した為、一部の顧客は在庫調整に注力したので短期的にはマグネクエンチの販売量に影響を及ぼしたと分析しています。

出荷統計の年間 (1 ~ 12 月) を通した最終報告は BM NEWS 4 月号に掲載されますので、参照お願い致します。

